


J T U
埼玉高教組
ニュース

発行 埼玉高等学校教職員組合
〒330-0062
さいたま市浦和区仲町3-13-10
ヤギシタビル4F

くじら
教育復興に向けて支援の輪を広げよう!

NO. 707

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

年頭にあたって ご挨拶

埼玉高等学校教職員組合 中央執行委員長 羽田亮介

明けましておめでとうございます。年頭にあたって、ご挨拶させていただきます。

【確定交渉】

今年度の確定交渉の賃金部分については、先月26日に差額支給があり、30年ぶりの3%以上の賃上げということで、それなりのまとまった額が支給されました。

しかし、確定交渉そのものは、現在、地公労交渉(知事部局と教育局との交渉)、教育局交渉(教育局のみとの交渉)ともに2回行いましたが、引き続き継続しています。(12月までに終結しているのが常)

論点は、担任手当、土曜授業、駐車場手当など多岐にわたりますが、引続き、少しでも職員にとって有益となるような交渉にしていきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いいたします。

【きな臭くなってきている】

二つの事柄について述べます。

まず一つ目は、きな臭い世の中になってきていることについてです。世界に目を向けると、ロシアによるウクライナへの侵攻、イスラエルによるガザ地区への「虐殺」、アメリカがベネズエラを攻撃し大統領を自国へ拉致するという暴挙が起きています。

我が国に関して言えば、防衛費が毎年増額、2026年度予算案では9兆円超で調整され、GDP比2%(約11兆円)に達しようとしています。又、イスラエル製の武器・装備品を241億円分、購入していたことが判明、加えて同国製攻撃型ドローンの購入に向けて一部契約を進めていることも報道されました。

他にも官邸幹部が「日本は核を持つべきだ」と発

言したとの報道もありました。現在のこのきな臭い状況は、非常に危ない事態に陥っていると思います。

世の中をよく見ていると評されるタモリは、2022年末、TV番組『徹子の部屋』で「来年はどんな年になるか」と問われ、「新しい戦前になるんじゃないですかね」と答えました。我が国の現状が、軍事緊張の高まり、政府批判の抑制などといった、戦前の不穏な世情に似てきていることへの危機感を感じているのだと推測します。

では、どうしたら戦争に向かわない世の中にしていけるのか。簡単に回答は出ませんが、少なくとも、こうしたことについて皆で話し合う、考えることはできるはずです。組合としてはそうしたきっかけを皆さんに提供していきたいと思っています。

【インクルーシブ教育について】

国は「インクルーシブ教育システム」という言葉を使っていますが、中身は特別支援教育です。国連は、障害者権利条約に基づき、2022年に特別支援教育の廃止とインクルーシブ教育の推進を勧告しました。具体的には、分離教育の中止、強制入院の禁止、障害のある子どもとない子が共に学ぶ体制の構築、地域移行の支援などを日本政府に求めました。

分離教育を続けてきた結果、ほとんどの「障害者」は、「健常者」と同じように町中で暮らしたり最後の時を迎えることが出来ない生活を強いられています。共に暮らす世の中にして行くには、共に学ぶことが必要です。皆さんと作って行きたいと埼玉高教組は考えています。

福島では週あたり授業時数を30時間に統一！

関高連（千葉開催第1分科会より）

今年度の関高連（関東地区高教組連絡協議会）が12月13,14日の日程で千葉市で開催された。埼玉高教組からは、宮嶋副委員長、嶋田書記長、瀬木中執、木戸書記次長の4名で参加。第1から第3の分科会に参加し、埼玉からの報告を行うと共に、参加都県からの情報を共有することが出来た。

第1分科会は 賃金・人事考課制度・労働条件改善などが議論の柱。各都県の人事委員会勧告状況や確定交渉状況、評価制度と賃金への反映状況、休暇制度や働き方改革の進行状況などが報告された。

働き方改革関連の話の中で、埼玉から「土曜授業」の状況を報告すると共に、週あたりの授業時数が31時間以上の学校が28校（38学科）あることを報告し、県教委が授業時数の設定を各校任せにしており、それが土曜授業の引き金になっている状況を説明した。また、昨年度の確定交渉で設置を引き出した土曜授業実施校の情報交換会によって、既に土曜授業を廃止した学校からの情報提供が各校にも影響を与え、今年度は土曜授業を廃止する流れが確実に作られつつあることを報告した。

これに対して、日高教（日本高等学校教職員組合）を代表し参加していた福島高教組の書記長が福島

の状況を説明した。

福島では、各高校に対し「週あたり授業時数を30時間にせよ」と通知が出され、いわゆるナンバースクールを中心に週最高33時間が一斉に減らされた。その結果、31時間が4校残ったものの、他全ての高校が30時間になった。

この発言に耳を疑ったのは埼玉県教委が「教育課程の編成権は学校長」を盾に時数削減に頑なだからである。埼玉では文科省の「カリキュラム・オーバーロード是正」についても県教委は「それは義務制の事」と高を括っていたが、福島では県教委の主体的判断で一斉に是正がなされたからだ。

つまり福島県教委は働き方改革、カリキュラム・オーバーロード是正を優先したのである。なお2022年から新潟では7時間目を原則廃止している。2019年の31校から2023年は9校へと減少している。

要は県教委のやる気である。私たちは「土曜授業」廃止を求めて交渉・協議をしているが、実際、浦和西高校は廃止に動き、その流れはできている。県教委はさらに他県の動きに遅れることなく、働き方改革を進めよ。

関高連からの情報は次回以降も掲載する予定である。お楽しみを！（木戸）

～「相変わらず」が幸せ～

白鯨スキーツアー報告

白鯨スキーツアーは無事に37回目（埼玉高教組設立の1989年より）を終えました。

毎回、キッズレッスンから非圧雪コースレッスンまで幅広く活躍されているKさんの今年の年賀状は次のような文面でした。

「ご無沙汰しています。私は相変わらずです。相変わらずと書ける事が幸せです。」Kさんの「相変わらず」は古希を過ぎてもスキーに熱中している事です。

37年間で多くの埼玉高教組組合員・元組合員が逝去されました。昨年はKさんと同年齢の初代書記長Nさんや年下の「三賢人」の一人Iさんが亡くなりました。懇親会ではお二人をはじめ故人を偲ぶ話題がたくさん出ました。そして、今年

もスキーができる幸運を確認しました。

参加者の皆さんと宿舎の前で記念撮影

